

II 北九州市のさらなる学力向上のために

1 学力向上構造図

2 学力向上のための今後の取組

- (1) これまでの取組の徹底
- (2) 既存すべき既存の施策
- (3) 新たに取り組むべき施策

3 成果を上げた取組事例

- (1) 年度毎の各学年の経年比較（これまでの分析の視点）
- (2) 同一集団での経年比較（これからの分析の視点）

1 学力向上構造図

学力

学習意欲
基礎的・基本的な知識・技能
思考力・判断力・表現力等

家庭

家庭と学校の
パートナーシップ

家庭の教育力

- 望ましい生活習慣
 - ・食生活・生活リズム
 - ・メディアへの接触
- 家庭学習習慣の確立

保護者の高い意識
学校理解

ケータイ スマホ
夜10時電源
OFF運動

ノーテレビ
ノーゲーム
読書の日

家庭学チャレンジ
ハンドブック

・家庭学習など 保護者への
働きかけ

ひまわり学習塾

・家庭学習の習慣化の取組

保護者の社会的経済的背景
(学歴・所得等)

教育行政 (教育委員会)

学校

PDCAサイクル
(各学校・学年・学級、個人の経年分析)

全国学力・学習状況調査
北九州市学力状況調査
英語能力判定テスト

校長のリーダーシップ・学校経営

・高め合う職員集団づくり(同僚性、協働性)

学力・体力向上プラン

学力向上学校訪問

北九州市学力向上だより

学力向上講習会

・校種間の連携

小中一貫連携教育推進事業

保幼小連携の充実

教師一人一人の指導力の向上

・校内の授業改善を推進するための支援

指導主事等による学級経営・指導方法に関する指導助言

通常の学級担任のための指導アイデア

授業改善ハンドブック(リーフレット)

北九州スタンダードカリキュラム

指導と評価ハンドブック

・授業改善を支援する校外研修

学校大好きオンリーワン事業

教育センター研修

全員研修会

マイスター教員

・学習支援教材

音読暗唱ブックひまわり

英語音読暗唱ブックRainbow

児童生徒一人一人への きめ細かな教育の確立

・補充学習

夏の教室

各学校の特設時間の取組

ひまわり学習塾

・ICTの活用

ICT教育推進の支援(ICTサポーター等)

・市費講師配置

市費講師配置事業(少人数習熟度別指導及び専科指導)

良好な学習環境

学びの基盤づくり(いじめ・不登校対策、生徒指導含む、人権意識に基づく相互理解)

生徒指導主事・主任会議

人権教育教材集(新版いのち)

対人スキルアッププログラム

スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、教員加配(専任生徒指導主事) 学校支援ライン 等

特別な支援を要する児童生徒への対応

特別支援教育相談センター

特別支援教育コーディネーター、特別支援教育支援員 等

地域

地域と学校の
パートナーシップ

地域の教育力

- 子どもへの関心
- 学校への理解・協力

スクールヘルパー

ブックヘルパー

ひまわり学習塾
学習支援員

学校支援地域本部

企業による
小学校応援団

学力向上推進体制の強化(各課での連携)、必要な教職員の配置 ・ハード面(学校施設、エアコン等)や教材(ICT含む)の整備

2. 学力向上のための今後の取組

(1) これまでの取組の徹底

一時間一時間の授業の中に、教育のすべてがある！

「北九州スタンダード
すべての教師のための授業改善ハンドブック」
リーフレット版

「わかる授業」づくり **5** つのポイント



- 1 学びの基盤を支える「学習規律」
- 2 板書には、必ず「めあて」、「まとめ」と「振り返り」
- 3 子どもの思考を深める「発問」の工夫
- 4 1時間の中に「話し合う活動」と「書く活動」
- 5 「まとめ(振り返り)」終わりの5分の確保



授業改善点検評価シート(自己評価用)

	授業全般	チェック	ポイント
1	発達の段階に応じた、望ましい学習規律を定着させることができた。		→ 1
2	「めあて(目標)」の提示があり、それに向けた授業展開を行うことができた。		→ 2
3	構造的で分かりやすい板書ができた。		→ 2
4	発問は意図が明確で、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするなどの工夫をすることができた。		→ 3
5	話し合う活動などの、児童生徒同士の意見交流ができた。		→ 4
6	自分の考えを書く活動を位置付けることができた。		→ 4
7	授業の振り返りの時間を確保し、「まとめ」をすることができた。		→ 5
8	子どもは、教師の説明や友達の発言をよく聞いている。		→ 1
9	机間指導でつまずきやよい考えを発見することができた。		→ 4

日々、自分の学習指導の在り方を、子どもたちの学習の様子を通して自己評価してみましょう。



ポイント1 学びの基盤を支える「学習規律」

1 時間を守る

- ・チャイム席と授業の準備
- ・まず教師が授業の開始と終わりの時間をしっかり守り範を示す

2 授業は気持ちのよい挨拶から

- ・はじめと終わりの挨拶はきちんと行う
- ・名前を呼ばれたら、しっかり返事をする

3 正しい姿勢で座る

4 ルールを守って発言する態度を大切に

- ・話している人を見て聞く
- ・うなずきなど反応を示しながら聞く
- ・話の内容を理解してまとめる練習をする
- ・声の大きさ、話す速さなど、聞く相手のことを考える

5 忘れ物を減らす事前指導

継続して指導することが大切。
ぶれない、中途半端にならないように
しましょう。



ポイント2 板書には、必ず「めあて」、「まとめ」と「振り返り」

<板書のポイント>

1 内容が構造的に整理されている。

- ・単元(題材)名、**めあて**、**まとめ**が示されている。
- ・教科で必要な要素を踏まえている。

2 授業中の子どもの考えが関連付けられている。

- ・矢印・囲み・観点等

3 適切な文字量・文字の大きさ、色チョークの効果的な活用。

せ
る
め
あ
て
授
業
の
見
通
し
を
も
た
せ
る



ま
と
め
や
振
り
返
り
は、
子
ど
も
の
言
葉
で。
め
あ
て
と
対
応
し
た
ま
と
め
に
な
っ
て
い
る
か。

ポイント3 子どもの思考を深める「発問」の工夫

★学習を深める発問の条件★

- 1 ねらいに向かうもの
- 2 学習内容に即し、深く追究させ、発展させるもの
- 3 学習内容の確かな習得に向かわせるもの
- 4 子どもの思考や心情を深めさせたり、発展させたりするもの。



よい発問とは、

- ・明瞭簡潔なわかりやすい言葉
- ・内容に応じて間や声の大小、調子など話し方に変化をつける
- ・ずれを生かしたり、新しい見方を示したりする
- ・子どもの考えの筋道に応じて行う
- ・一問一答式の発問でなく、様々な考えを引き出し、思考を深めさせる発問



ポイント4 1時間の中に「話し合う活動」と「書く活動」を

1時間の授業の中に「主体的に考え、話し合い、書く」というサイクルを定着させる。



ペア(2人)で、意見を交わしながら理解を深める。



グループ(3人以上)で交流しながら課題解決のための考えを導き出す。



学級全体で、様々な考えを出し合って理解を深める。



早く正確に。自分の考えを自分の言葉で書く。

ポイント5 「まとめ(振り返り)」終わりの5分の確保

学習を振り返らせ、子ども自身に自己評価をさせる

(例)1時間の「振り返り」をノートに書かせる

- ・「自分の言葉で書く」
- ・「何字以内で書く」
- ・「〇〇の言葉を使って書く」等

その時間の頑張りを称賛する。



子どもの学習状況(つまずき)の確認をする。



わかったこと、解決したこと、更なる問題として残されていることを子どもの言葉で話し合わせる。



学習意欲を高める学習展開

日頃の授業の積み重ねが大切です。

起 授業開始5分が勝負！「導入」を磨く！



承 子どもが全力を傾けて取り組む学習活動を！



転 子どもの思考を深める発問に挑戦！



結 終わりの5分も勝負！子どもの言葉で授業をまとめる

(2) 拡充すべき既存の施策

- ① 児童生徒一人一人の学力の状況を継続的に把握・分析するための北九州市学力状況調査（学習状況調査を含む）の拡充
- ② 子どもひまわり学習塾の拡充と改善
- ③ 校種間の連携の一層の推進（保幼小連携・小中連携）
- ④ 読書活動の一層の推進
- ⑤ 家庭学習、生活習慣の改善等の一層の推進
- ⑥ 専科指導教員の一層の配置

(3) 新たに取り組むべき施策

（授業改善関係）

- ① 質の高い授業に教員が触れる機会の提供
【例】学校大好きオンリーワン事業・マイスター教員・教育課程サークルを活用するなど全員研修会の改善
オンラインで質の高い授業を動画で提供
- ② 子どもたちに活用力をつけるための指導方法についての教員研修
- ③ 教員一人一人への助言体制の強化
【例】授業改善のための助言等を行う支援教員の学校への配置や巡回
- ④ 校内研修等の改善
【例】特定教科の指導法のみでなく学力を意識した横断的な研究主題の設定（小学校）、小学校を参考にした研修体制の確立（中学校）
- ⑤ 評価問題（単元末テスト・学期末テスト、定期テスト）の活用力を意識したものの改善

（その他）

- ⑥ 全ての校長を対象とした学力に関する講演会の開催

3.成果を上げた各学校の取組事例

(1) 年度毎の各学年の経年比較（これまでの分析の視点）

【全国平均正答率との差の推移を基準としたもの】〈小学校〉当該学年が10人以下の学校は除く

連続して改善傾向が見られる					特記事項	
		27年度-26年度	26年度-25年度			
1	A小学校	21.3	◎	20.6	◎	○放課後補充学習教室を立ち上げ、取り組んだ。 ○アシストシートやWEB問題、既習問題などを導入で活用した。 ○本校独自の「家庭学習パンフレット」を作成・配付した。
2	B小学校	29.7	◎	13.0	○	○単元や学習のまとめにアシストシートやチャレンジシートを活用した。 ○給食準備時間の10分間を利用して「算数道場」に取り組んだ。 ○発達段階に応じた体系的な家庭学習時間や内容を設定し取り組んだ。
3	C小学校	24.7	◎	15.9	○	○朝自習やドリルタイム(掃除時間後の15分間)を全校一斉に実施した。 ○放課後補充授業等、特設時間を設定し取り組んだ。 ○宿題のスタンダード化を行った(時間、学年別・教科別)。
4	D小学校	23.8	◎	13.3	○	○学習の終わりに必ず感想を書かせ、書くことへの習慣付けを図った。 ○本校の課題について全職員で分析し、取組の方向性を共有した。 ○学年の実態を考慮し「家庭学習のすすめ」を作成し、実施した。
5	E小学校	76.4	◎	9.0		○生活振り返りカードを校長が点検、集約し、担任に返した。 ○家庭学習の在り方について、校長が児童に個別指導を行った。 ○授業の中で書く活動を位置付けた。
昨年度大きく上がりその傾向が続いている						
		27年度-26年度	26年度-25年度			特記事項
1	F小学校	17.3	○	39.9	◎	○朝自習にアシストシートの答え合わせ、解説、やり直しを行った。 ○全学年で宿題の徹底的チェックを行った。 ○各種プリント等を入れる棚を職員室に設置し、積極的な活用を図った。
2	G小学校	8.7		21.6	◎	○特設時間の取組内容計画表を作成し教職員の意識化を図った。 ○家庭学習の取組を振り返る時間を定期的に設定し取り組んだ。 ○自主学習ノートの紹介を通して、児童の意欲や関心を高めた。

【全国平均正答率との差の推移を基準としたもの】〈中学校〉

連続して改善傾向が見られる					特記事項	
		27年度-26年度	26年度-25年度			
1	H中学校	34.4	◎	7.4		○定期考査前に個に応じた指導時間を設定し、習熟度別の課題を準備し指導した。 ○学期に一度学級で漢字・基礎計算・英単語に取り組み、コンクールを実施した。 ○「チャレンジハンドブック」を活用し各教科担任が家庭学習の仕方を説明した。
2	I中学校	15.2	○	3.7		○板書の工夫を行うとともに、諸行事等で感想文などを書かせた。 ○放課後質問教室など放課後の時間の活用した取り組みを実施した。 ○定期考査前を中心とした自主学習ノートの活用に取り組んだ。
3	J中学校	14.3	○	4.7		○各教科の強化週間を設定し、週末に朝自習テストを実施した。 ○授業研究を行い、授業改善シートを活用して、指導法の検証を全職員で行った。 ○長期休業における宿題の配布、点検、提出の徹底を図った。
4	K中学校	14.6	○	3.5		○「めあて」や「まとめ」を明確にした、授業に取り組んだ。 ○授業での、意見を述べる場、集団づくりを意識した教育活動を設定した。 ○長期休業日、反復ドリルや課題的な内容などを宿題として課した。
昨年度大きく上がりその傾向が続いている						
		27年度-26年度	26年度-25年度			特記事項
1	L中学校	3.8		13.7	○	○漢字・計算・英単語の実態テストの後、補充学習をし、再度実態テストを行った。 ○校内で統一した板書用「めあてカード」「まとめカード」の作成・活用を図った。 ○保護者説明会等を利用して家庭学習への取組やそのための協力を仰いだ。

※ 全国平均正答率との差を年度ごとに計算し、その値を前年度と比較した数値

※ 全国学テの記号は、前年度調査と比べ、20P以上の改善は◎ 10～19.9P以上の改善は○で表示。

年度毎の各学年の経年比較による上昇傾向にある学校の例(K中学校)

(平成26年 4月実施)
国語B: 全国平均を大きく下回る
 〈マイナス5.4P〉

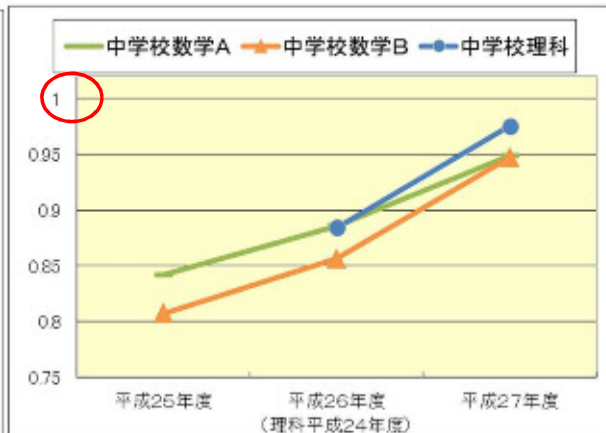
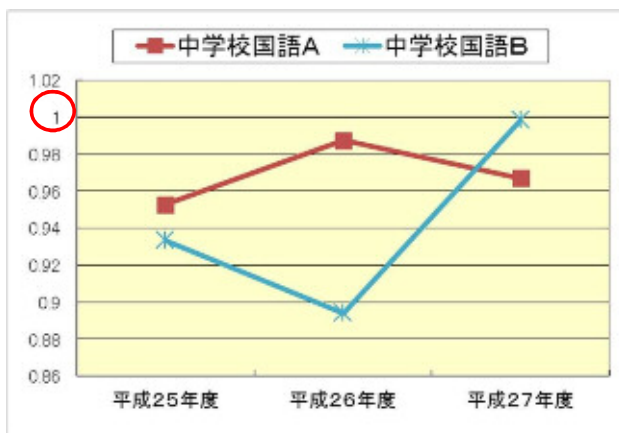


(平成27年 4月実施)
 全国平均とほぼ同じになった。
 〈マイナス0.1P 99.8%〉

数学: 全国平均を大きく下回る
 〈マイナス20P〉



数学A・Bとも上昇し全国平均に迫る
 合計で10Pの上昇が見られる

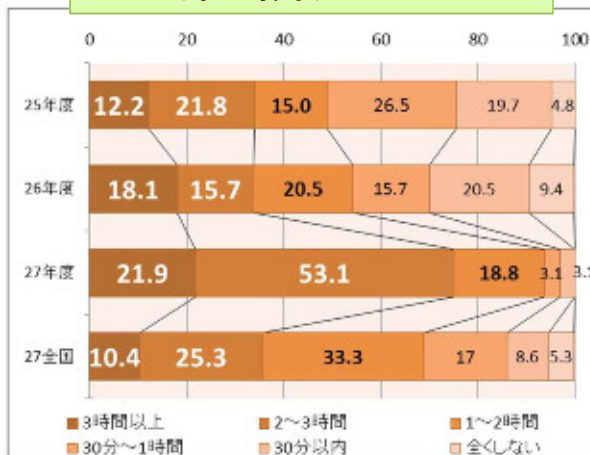


次のような学力向上に向けた取組を進めており、その成果が着実に表れていると考える。

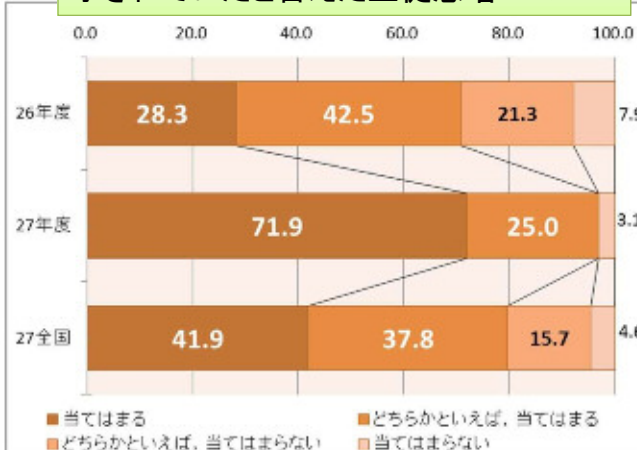
＜具体的な取組＞

- 「めあて」や「まとめ」を明確にした、授業に取り組んだ。
- 授業での意見を述べる場、**集団づくり**を意識した教育活動を設定した。
- 長期休業日に反復ドリルや課題解決的な内容などを宿題として課した。

家庭学習の時間が、大幅に増加している。1時間以上 **93.8%**



授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと答えた生徒急増**97%**



(2) 同一集団での経年比較（これからの分析の視点）

【平成27年度全国学調小6と平成25年度CRT小4との差の推移を規準】〈小学校〉当該学年が10人以下の学校は除く

改善傾向が見られる			特記事項
		27全国学調-25CRT	
1	A小学校	14.8	◎ ・全学年、宿題を毎日出す。(教科・国語、算数。プリント両面に印刷。) ・「考える授業づくり」としてノート指導を充実(例 算数ノートを見開き1ページ。左上に「めあて」、右下に「まとめ」。左側のページは個人思考・右側は集団思考)
2	B小学校	12.7	◎ ・校長が若手教員を集め、月に2回のペースで授業づくり・学級づくりについての研修を行っている。 ・学習規律、授業においても活動においてもめあて振り返り、授業作りと基盤づくりの2本柱で行う。
3	C小学校	9.5	◎ ・全校共通のマークを使用したノート(算数)の活用を通して、図式化することが定着し、割合の問題が解けるようになった子どもが増えている。 ・隙間時間(朝、給食準中、昼休み、放課後)に取り出しを行い、学習の補習や宿題等に取り組みせている。
4	D小学校	9.2	◎ ・給食準備時には「〇〇タイム」を設定し、担任外が補充学習を行っている。 ・放課後には「放課後〇〇タイム」を設定し、つまづきをなくすための補充学習を行っている。 ・夏休みの宿題を徹底するために、保護者に宿題を渡し、答えあわせについても協力を求め、その後、担任が点検・評価を行っている。
5	E小学校	8.3	◎ ・調査問題の活用によって学力向上を図った。 ・家庭学習で、毎日の宿題にプラスして個々の児童に合わせた取組を行っている。 ・少人数指導の授業を習熟度別にし、低学力の児童に徹底的に指導を行っている。 ・放課後の時間を使い、補充学習を行っている。

※ 平成27年度全国学調と平成25年度CRTとを比較したもの

【全国学調】国語A+国語B+算数(数学)A+算数(数学)B=4つの教科・区分

【C R T】国語+算数(数学)=2つの教科

H27全国学調 (4つの教科・区分の平均正答率の和(各校)-4つの教科・区分の平均正答率の和(全国))÷4=X

H25CRT (2つの教科の平均正答率の和(各校)-2つの教科の平均正答率の和(全国))÷2=Y

X-Y=Z(Zが上記の数値である) ※平成25年度CRTと比べ、5P以上の改善は◎ 1~4.9Pの改善は○で表示。

【平成27年度中3と平成24年度小6の全国平均正答率との差の推移を基準としたもの】〈中学校〉

改善傾向が見られる			特記事項
		27年度-24年度	
1	F中学校	9.0	◎ ・基本事項5項目(①学習規律 ②板書に「めあて」と「まとめ」を書く ③発問の工夫 ④話し合う活動を取り入れる ⑤振り返りの時間の確保)の徹底。 ・行事等ことあるごとに、書かせる活動の徹底。 ・生徒会を中心とした前向きに取り組む集団作り。
2	G中学校	7.5	◎ ・書く活動の充実、書いたものを掲示。(例 俳句・お弁当の日のレポート等) ・提出物の徹底 ・3年生 朝の時間「折々の言葉」視写 ・週1回「天声人語」視写 ・学力調査の結果を学年の職員で分析し、課題に対する取組を考える。
3	H中学校	7.0	◎ ・板書の工夫を行うとともに、諸行事等で感想文などを書かせた。 ・放課後質問教室など放課後の時間の活用した取り組みを実施した。 ・定期考査前を中心とした自主学習ノートの活用に取り組んだ。
4	I中学校	5.2	◎ ・学習規律の徹底、あいさつ・返事・姿勢 ・提出物の徹底 ・生徒の実態に即した指導、生徒の学力のみとり。
5	J中学校	4.8	○ ・徹底したドリル学習、問題数の量をこなす。 ・多くのことをするのではなく、ひとつのことに焦点化した取組。 ・学習規律の徹底、学校に対する信頼感。

※ 平成27年度の中学校の調査結果と平成24年度の中学校区内の小学校の調査結果とを比較したもの。(理科も含む)

【全国学調】国語A+国語B+算数(数学)A+算数(数学)B+理科=5つの教科・区分

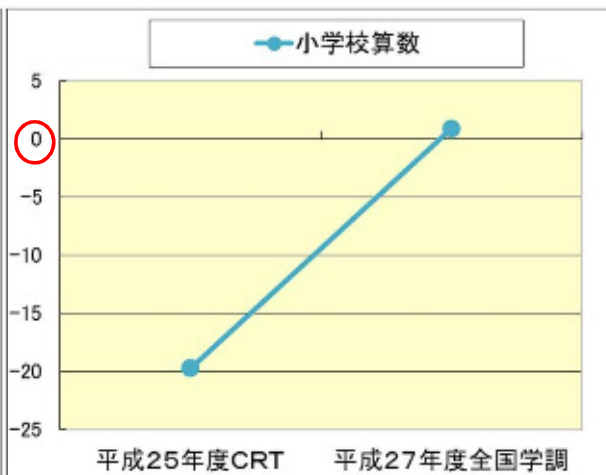
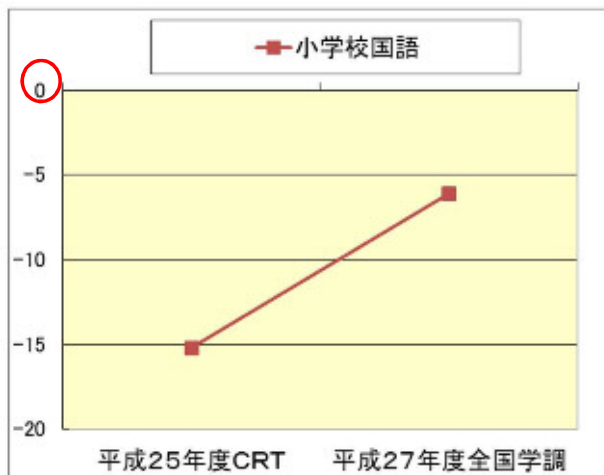
H27全国学調 (5つの教科・区分の平均正答率の和(各校)-5つの教科・区分の平均正答率の和(全国))÷5=X

H24全国学調 (5つの教科・区分の平均正答率の和(各中学校区の小学校)-5つの教科・区分の平均正答率の和(全国))÷5=Y

X-Y=Z(Zが上記の数値である) ※平成24年度全国学調と比べ、5P以上の改善は◎、1~4.9P以上の改善は○で表示。

同一集団での経年比較による上昇傾向にある学校の例(A小学校)

(平成25年度CRT 4年生1月実施) → (平成27年度全国学調 6年生4月実施)
 国語: 全校平均を大きく下回る(マイナス15P) → 国語は大きく上昇(9P上昇)
 算数: 全国平均を大きく下回る(マイナス20P) → 算数は20P以上上昇している
 算数において全国平均を超える

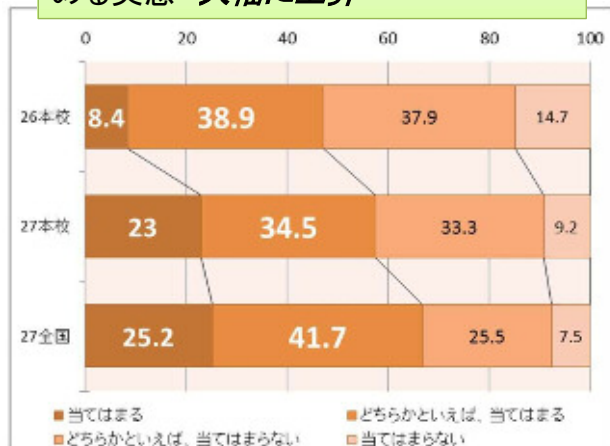


次のような学力向上に向けた取組を進めており、その成果が着実に表れていると考える。

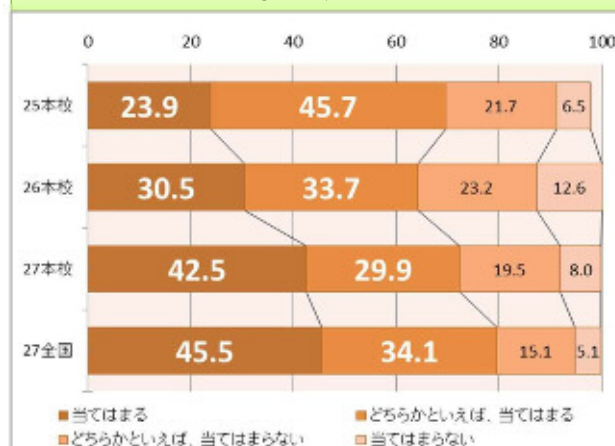
＜具体的な取組＞

- 全学年宿題を毎日。
- 「考える授業づくり」として、ノート指導を充実
 (例：左上にめあて、右下にまとめ、左側が個人思考、右側が集団思考)
- 算数の基礎問題を集中して取り組む。

話し合う活動で自分の考えを深め、広める実感 **大幅に上昇**



算数の問題をあきらめずにいろいろな方法を考える意欲 **全国に近づく**



【北九州市学力向上推進会議】

議 長	坂本	憲明	福 岡 教 育 大 学 教 授
構成員	井上	豊久	福 岡 教 育 大 学 教 授
	山元	悦子	福 岡 教 育 大 学 教 授
	清水	紀宏	福 岡 教 育 大 学 教 授
	曾我部	駿介	北九州市 P T A 協議会会長
	波多江	憲治	北九州市立湯川小学校校長
	米田	敏彦	北九州市立あやめが丘小学校校長
	宮原	謙二	北九州市立赤崎小学校校長
	江口	恵子	北九州市立熊西中学校校長
	大坪	和廣	北九州市立守恒中学校校長
	丸山	誠吾	北九州市立高見中学校校長

平成 27 年度 全国学力・学習状況調査 報告書

発 行：北九州市教育委員会

指導部 指導第一課

〒803 - 8510 北九州市小倉北区大手町 1 番 1 号

T E L 0 9 3 - 5 8 2 - 2 3 6 7

F A X 0 9 3 - 5 8 1 - 5 8 7 3